つなげる英国との交流の架け橋

平成12年に中学生海外研修スクールで、イギリスのセント・オールバンズを訪問した際に、松川との交流の懸け橋として、英国王立バラ協会より『マツカワ』と命名されたバラが村に贈られた。

このバラにはもう一つ『フォーエバーフレンズ～永遠の友～』という名前がつけられている。

千葉県八千代市にある京成バラ園芸株式会社で作られている。また、松川村役場経済課観光係に注文すれば、1ポット800円で買うことができる。実物は松川村役場、道の駅、すずむし荘、かぼちゃやま農場、松川中学校などで見ることができる。

マツカワローズはシュラブ系（半つる性）、四季咲きのバラで、寒さに強い。つぼみはアプリコット色、咲き始めはピンク色、咲いた後は白い花を咲かす。枝がやわらかいので誘引しやすく、肥料があまりいらないため、育てやすい。

まつかわローズの点在地

村を守る山々

松川村から見た有明山
その形から「安曇富士」とも呼ばれる
有明山に雲がかかると雨降りの予報。

松川村から見える山には有明山、燕岳、大天井岳などがある。標高はそれぞれ2267m、2922m。大町市立山岳博物館の清水さんは、山がきれいに見える季節は人それぞれだが、おすすめは、五月の朝方で、写真を撮るのにちょうどいいという。

有明山は、山の形が富士山に似ている信濃富士や、有明富士とも呼ばれる。名前の由来は、天照大神が天の岩戸にこもった際に、手力男命が岩を投げたときにここに落ち、天下が明るくなったのでつけられたとの伝説がある。また、昔から山近くの住民に親しまれていて多くの伝説があり、和歌や万葉集にも出てくる。有明山は、燕岳や大天井岳より標高は低いが険しく登るのが困難なため、修験道として登られていた。村の登山口には、赤羽九兵衛信太郎という人が有明山に登って

「さらば、さらば、さらば」

と三回唱えると大天狗に変身し、里を訪れて一夜のうちに、一帯の田植えをしてしまったという話もある。

また、西行法師が

「信濃なる
　有明山を西に見て
心ほそのの
　道を行くめり」

と詠み、藤原定家が

「てりかはる
　紅葉をみねの光にて
まつ月細き有明の山」

と詠んだりと、数多く有明山が詠まれていた。

このように、古い歴史を持ち安曇節の一節にもなっている山だが、現在では急傾斜のため登る人はまれで、自然のままの状態をよく残している。

自然とライチョウ

北アルプスの最上部である厳しい環境の高山帯にはライチョウが生息している。ハイマツの下の地面に身を隠せる程度の空間を利用して巣を作り、雛の誕生は高山植物の花が咲く7月で、雪解けの状態によっては柔らかい新芽や高山植物の花などエサが豊富にある時期である。

ライチョウは氷河期を生きぬいてきた動物で国の特別天然記念物である。暖かくなるとライチョウの仲間は北極の周りや高山へ徐々に移動し、北極の周り以外は高い山に点在している。

日本アルプスに生息しているライチョウは、夏と冬とで羽の色が変わるのが特徴。夏のライチョウはオスが黒褐色、メスは茶褐色で冬はオスもメスも白色。換羽ともよばれるこの衣替えは日照時間が関係していて、秋になり日が短くなると褐色の羽がぬけ始め9月頃から約3ヵ月間で冬の白色の姿になる。

教科書にも載った神戸原扇状地

松川村の神戸原地区には「扇状地」と呼ばれる特有の地形がある。

「扇状地」とは、河川によって形成された砂礫堆積地形のことを言う。山の谷口を頂点として、平地に向かって扇状に開いた半円錐形になることから扇状地とよばれている。

扇状地にはたくさんの部分がある。

扇状地の頂点を「扇頂」といい、末端を「扇端」、中央部が「扇央」という。複数の河川が複合してできた扇状地を合流扇状地いい、形成期が異なる扇状地が重なり合いできたものを合成扇状地という。「扇頂部」は勾配が大きく面積も小さいため利用しにくい。「扇央部」は河川の伏流により地下水位が低く乏水地となるため、水田には利用しにくく果樹園となってる例が見られる。「扇端部」は湧水帯をなし水を得やすいため、古くから集落や水田が立地した。

実際に、松川村にはリンゴ農園が多いのはそのためだと考えられる。

松川村のシンボルでもある「有明山」から美しく広がる神戸原扇状地は、学校の教科書にも載るほど自然が豊かで山の頂上から見る景色はきれいだ。

神戸原扇状地が
一望できる（有明山）